

【海外拠点】山口銀行釜山支店、山口銀行青島支店、山口銀行大連支店、山口銀行香港駐在員事務所
【現地駐在】TTB銀行(タイ・バンコク)、日本政策金融公庫バンコク駐在員事務所(タイ・バンコク)
HD銀行(ベトナム・ホーチミン)、明倫国際法律事務所ホーチミンオフィス(ベトナム・ホーチミン)



【釜山支店】

【インサイト】ポストコロナの韓国市場を読み解く～第三回～

1. はじめに

7月下旬から9月初旬にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大により1年延期された「東京オリンピック・パラリンピック」が行われました。今回は日本での開催ということもあり、時差の心配もなくテレビ等で観戦された方も多かったのではないのでしょうか。

大会期間中には、日本の食文化も多く海外に発信されました。日本の寿司の味が忘れられない「寿司ロス」になってしまった選手もいるとの報道もあり、日本の食べ物（特に、水産物）がいかに良質なのか実感するところもありました。

韓国では、地理的な近接性もあり、日本の水産物が盛んに輸入されています。韓国においては、日本の水産物がどのように輸入され、消費されているのでしょうか。今回は、食の中でも水産物にスポットライトを当て、日本から韓国への水産物輸出状況等を分析し、そこに生まれるビジネスチャンスについて、お伝えいたします。

2. 日本から韓国への水産物輸出状況

そもそも、韓国へどれくらいの水産物が輸出されているのでしょうか。また、輸出の多い水産品目は、どのようなものなのでしょうか。

韓国では、日本と同様、刺身、寿司、煮物、焼き物等様々な形で水産物が消費されています。街中でも寿司店や刺身店、アグチム（アンコウともやしの煮物）店等多様な店舗が軒を連ねており、魚食文化の定着がうかがえます。

韓国に対する輸出量としては、2020年現在、年間で約3万トン、金額にして約120億円の規模となっています。2020年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による外食需要の減少、商談会・展示会の中止や延期等、ビジネス推進に関し大きな困難が相次いだ年となりましたが、底堅い需要に支えられ、前年と概ね同水準の推移となっています。

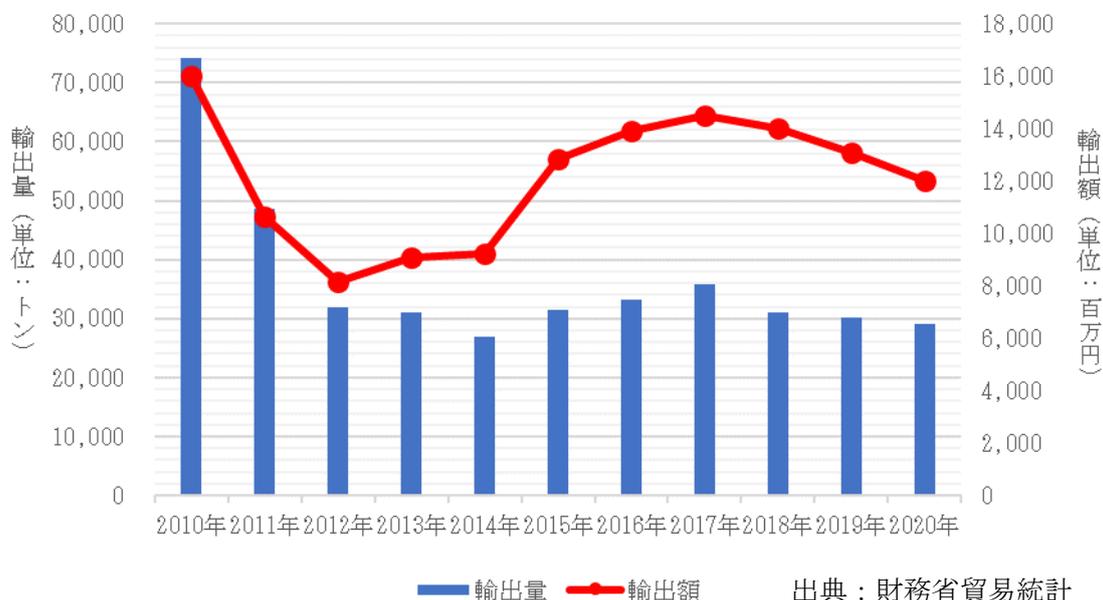
一部報道等では、福島第一原子力発電所の事故等を背景とした風評被害による消費量の減少が懸念されていますが、直近10年の推移をみると、事故後（2012年以降）においても毎年3万トン前後、金額としては100億円前後での実績推移となっており、2011年以前と比較すると、影響はあるものの根強い需要があることが確認できます。

【写真1 刺身提供の様子(1)】



出典：筆者撮影

【図表 1 水産物輸出货量および金額推移（日本→韓国）】



【図表 2 品目別輸出货量（日本→韓国）】

また、品目別にみると、ホタテ貝や鯛、ホヤや鰯が、主に輸出されていることがわかります。特にホタテ貝と鯛については、直近 5 年において 1 位、2 位を維持しており、根強い需要があることがうかがえます。

	輸出货量(単位: kg)	割合	輸出額(単位: 千円)	割合
ホタテ貝	9,061,643	31.2%	3,234,570	26.9%
鯛	4,145,906	14.3%	2,257,774	18.8%
ホヤ	3,576,654	12.3%	845,864	7.0%
鰯	2,448,955	8.4%	241,325	2.0%
スケトウダラ	1,695,709	5.8%	607,823	5.1%
エイ	1,157,634	4.0%	640,326	5.3%
(参考)全体	29,027,172	100.0%	12,029,094	100.0%

韓国近海での漁獲が難しい魚類^{※1}や漁場により品質が異なる魚類^{※2}は輸入に依存する傾向にあるため、今後も底堅い需要が見込めず。

※2020年

出典：財務省貿易統計

※1 ホタテ、鮭等

※2 鯛、ハマチ等

3. 韓国における水産物流通状況について

韓国では 1970 年代以降、生活水準の向上および輸送環境（冷蔵輸送等）の整備を背景とし、食用魚介類の消費量が増加を続けています。近年では、1 人当たりの消費量が日本やノルウェーを抜き世界第 1 位となった[※]との報道も見られます。

※1 人当たり年間平均消費量…57 kg（2020 年）

このように活況を呈している韓国水産業界ですが、どのような流通経路を経て、消費者のもとへ届けられているのでしょうか。

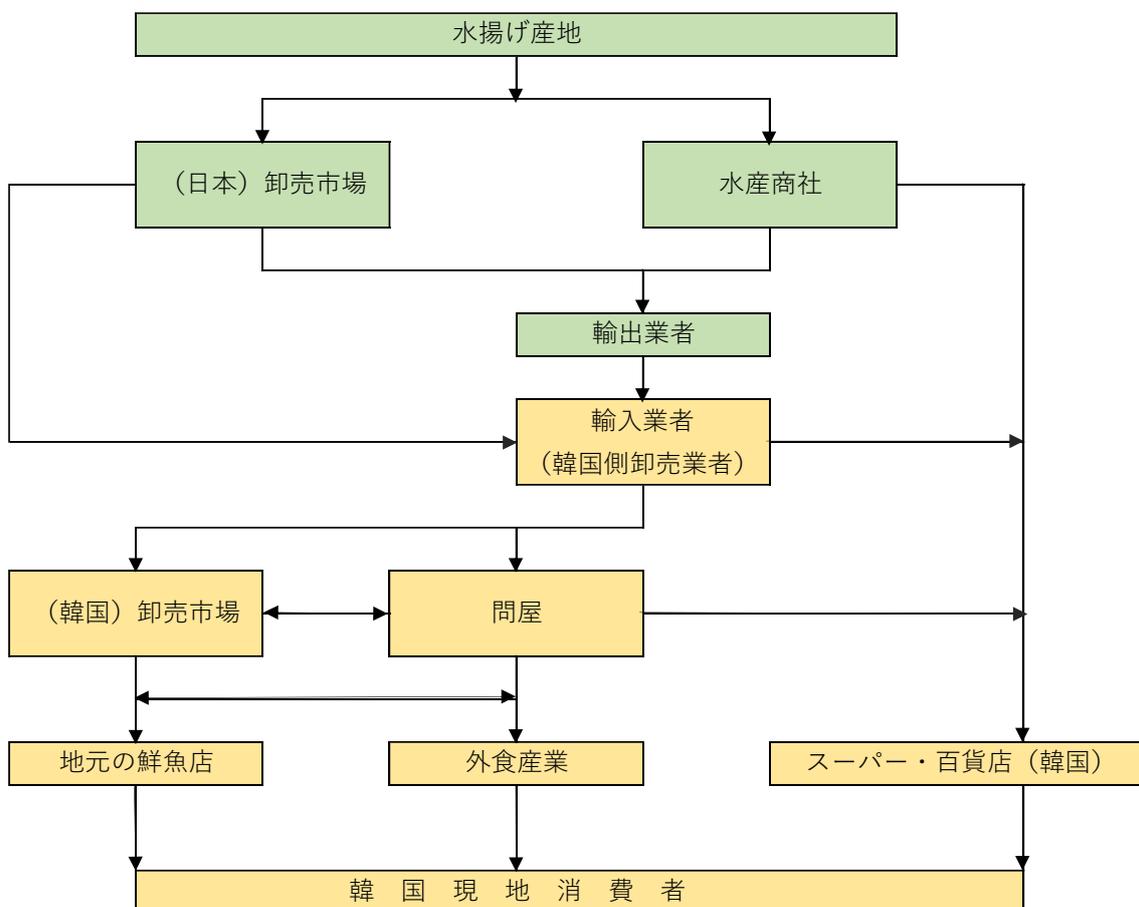
最も一般的なのは、韓国の輸入業者（卸売業者）が日本の輸出業者から購入するケースです。このケースでは、韓国側輸入業者が調達したい分量・品種を日本側輸出業者へ伝え、日本側の輸出業者が日本国内の産地や市場で買い付け、輸出の手続きを進めます。

また、韓国の輸入業者は、コストや配送スピードを重視し、日本の卸売市場で直接買い付けを行う場合もあります。

輸入された商品は、韓国の輸入業者を經由し現地の卸売市場や問屋（≒仲卸業者）へ販売されます。小売店・外食産業は一般には水産物市場および仲卸業者を經由し、一般消費者への提供へつなげています。

一部のスーパーマーケットや百貨店は、日本のパートナー水産商社から直接水産物を調達する場合があります。

【図表 3 日本から韓国への水産物流通ルート】



出典：農林水産省 国別戦略的マーケティング事業（韓国）より筆者作成

また、特に日本から韓国への水産物の流通について特徴的なのが、活魚車の存在です。活魚車とは、その名の通り活きた水産物を水槽に入れ、韓国まで運ぶ車両のことです。新鮮で高品質な水産物を届けるうえで、大きなメリットがあります。

活魚車については、距離が近くリードタイムが短いことおよび、車両積載が可能なフェリーがあることにより※、日韓間特有のスキームとして、古くから強固な取引関係が成立しています。※関釜フェリー（下関⇄釜山）、カメラライン（福岡⇄釜山）等

特に釜山は海に面しており、フェリーの発着地ともなっていることから、水産物市場が発達しています。市内中心部にあるチャガルチ市場という市場では、近海の水産物はもち

ろん、活魚車等で日本から搬入された水産物も、盛んに取引されています。

【写真2 チャガルチ市場での活魚販売の様子】



出典：筆者撮影

このように流通が盛んな日本の水産物ではありますが、輸出に関する制限については、事前によく確認しておく必要があります。2021年現在、放射性物質検査証明書や原産地証明書の提出が必須となっていることに加え、一部の地域（東北地方等）で生産された水産物は禁輸品となっているため、産地については特に慎重な確認が求められます*。

※2011年の福島第一原子力発電所事故の影響による規制強化が背景。

4. おわりに

今回は水産物にスポットライトを当て、韓国への輸出現況についてお伝え致しました。1人あたりの年間平均魚介類消費量にも表れている通り、韓国人の水産物消費の潜在力についてご理解頂けたのではないかと思います。

【写真3 刺身提供の様子 (2)】



出典：筆者撮影

また、特に刺身についてはほとんどの日本食料理店で提供されている状況にあり、風味豊かな日本酒との相性は抜群です。

配達文化が発達している韓国においては、店舗から新鮮な刺身やお酒を取り寄せ、自宅で食を楽しむことも可能になっています。

日韓両国の渡航が難しい状況が続いている為、海外の事業者との新規ビジネス構築が難しくなっています。皆が自由に渡航出来ない状況だからこそ、先手を打ち海外ビジネスへ挑戦してみませんか？当店では、韓国への輸出・進出を希望される皆様へ多様な支援プログラムを用意しております。いつでも皆様のご連絡をお待ちしております。

(山口銀行釜山支店 一ノ瀬 友暉)

【参考文献】

水産庁：水産物貿易の動向

https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/r02_h/trend/1/t1_1_4.html#i

農林水産省：韓国の農林水産業概況

https://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/attach/pdf/index-186.pdf

財務省：貿易統計

<https://www.customs.go.jp/toukei/info/index.htm>

水産庁：世界の水産物需要をめぐる状況

https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/r02_h/trend/1/t1_f1_1.html

KONEST：チャガルチ市場

https://www.konest.com/contents/shop_mise_detail.html?id=2250

農林水産省：国別戦略的マーケティング事業・韓国

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_enkatu/pdf/h23_easia_korea.pdf

ジェトロ：韓国・水産物の輸入規制、輸入手続き

<https://www.jetro.go.jp/world/asia/kr/foods/exportguide/marineproducts.html>

釜山日報：チャガルチ市場、水産物の取扱いについて

<https://www.busan.com/view/busan/view.php?code=2021041519132566909>